

11 期生 合格者インタビュー

東京大学 理系

— Part 2 —

あだち みつよし
安達 充慶さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)なかしお りょう
中塩 瞭さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)えんどう たける
遠藤 建さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)ふかだ たいが
深田 大雅さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)さとう ゆうき
佐藤 祐希さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)まつい あやり
松井 彩里さん (理Ⅰ・渋谷教育学園幕張)

グノの物理の授業は大好きだったし、ものすごく楽しかったです。
昔の科学者が考えていたことを辿りながら進めていく授業スタイルで、
考えるのが好きな僕には刺激的でした。

佐藤 祐希さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

目次

●入塾のきっかけ	P24
●グノーブルの英語	P25
●英語が伸びた時期	P26
●グノーブルの数学	P27
●グノーブルの国語	P28
●グノーブルの物理・化学	P28
●グノーブルの先生	P28
●グノーブルのシステム	P29
●後輩へのアドバイス	P30

※●は、この PDF フルバージョンのみの掲載項目

入塾のきっかけ

遠藤：グノに入ったのは高2の冬期講習からです。それ以前の1年間は大手予備校に通っていましたが、1回の授業で扱う英文の量が少なく、もっと英文をたくさん読める塾を探し始めました。そんな頃、学校の合格体験記で先輩がグノを高く評価しているのを見つけて、それがグノに興味を持ったきっかけです。すでに通っていた中塩君の話も聞いてみて、入塾を決めました。

松井：私は高1の3学期から英語で通い始めました。それまではずっと習い事が忙しくて、学校との両立で精いっぱいでした。高1の冬に習い事を辞めて塾探しをしたとき、「英語を英語として読む」というグノの評判を聞いて、グノに興味を持ちました。グノに通っている友達からも話を聞いて、他塾と比較検討した結果、入塾することを決めました。

中塩：僕は、中1になる春のスタートダッシュ講座*から英語で通っていました。姉が、塾に通わずにいたら英語が苦手になってしまっていて、後々苦労していたんです。それを見ていた母親がグノを見つけてきました。語源から英単語を学ぶなどの方針に共感したそうです。

中1の頃、渋谷生は僕だけでした。高2のあたりから増えました。グノについて僕に聞いてくる友達がいましたし、僕が勧誘して入塾した友達もいます。他塾の英語に不満を持っていた友達には、グノを強く勧めました。

*新中1生対象の講座 (2~3月に開講)。

松井：私がグノに通い始めた頃、渋谷のグノ生は3、4人くらいでしたのでグノに関する評判もほとんどありませんでした。でも、中塩君が言う通り、どんどんグノに通う人たちが増えて、「グノに通ったら英語ができるようになる」という評判も耳にするようになりました。私自身もグノに通って成績が一気に上がったので、グノについて聞かれることもありました。

安達：僕は高校受験のときに通っていた塾で春期講習の英語を受けてみましたが、授業の内容に満足できませんでした。かといって高校に入学して、学校の英語だけなのも不安でした。

それで、『高校への数学』の裏にグノの広告が載っていて気になっていたので夏期講習に参加してみ



安達 充慶さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)



遠藤 建さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)

たところ、「ここの英語は楽しくて力がつく」と思えて通い続けることにしました。

佐藤：中3の夏に、「英語でどこかの塾に入ろう」と思いました。「塾の宿題が多くて終わらない」と皆が言っているところは大変そうなので候補から外しました。

そんなとき、友達のお母さんが、高校時代に中山先生に教わったということで、僕にグノを紹介してくれました。僕自身はあまり塾について調べたわけではなく、他塾との比較もほとんどせずに、グノに入塾しました。

深田：僕は、高1まで塾に全く通わず、数学は参考書で勉強していました。高2の春になって、ベクトルが自分では手に負えなくなったので、ベクトルを教えてくれる塾を探しました。

グノの春期講習にベクトルを速習できる講座があったので、グノについてはよく知らないまま受講してみたところ、とても分かりやすかったので数学で入塾して、グノの雰囲気や教え方が気に入って、その後、高2の夏から物理と化学、高3の春から英語も受講しました。

グノーブルの英語

遠藤：もともと通っていた予備校は予習前で、授業はその解説でした。そういう授業スタイルだと、家で自習するのとあまり変わりありません。

グノの場合、授業は演習から始まって、その場で解説も受けられるという完結型なので、やる気も湧くし、内容をしっかり消化できるのでありがたかったです。宿題も授業で扱った英文の音読が中心ですから、机に向かう必要もなく、本当に机に向かわないで復習を済ませていました。

中塩：授業中に集中して取り組めるのがグノの授業ですし、極端に言うと、授業に集中しているだけでも力をつけられると思います。

まず、グノの教室には、最初から真剣に取り組む空気ができています。授業最初の演習は添削対象だし、その後の演習も、周りの空気が引き締まっていますから、しっかり頭を使って解いていました。

そして、真剣に取り組めると課題が浮き彫りになりますし、すぐにその場で解説が始まるので、問題点が腑に落ちるといえるか、印象深いものになります。

グノの場合、解説が細かな単語や文法事項に留まることは絶対にありません。全体の流れや構成などの大局的な面にも及ぶし、さらには背景的なことまで先生が語ってくれるので、授業に出ているだけでも、知らず知らずのうちに全体の流れをつかみながら英文を読めるようになりました。

僕はいつも一番前の席に座って、先生を独占している気持ちになって聞いていました(笑)。

佐藤：よく先生がおっしゃっていた言葉の中に、「語学はスポーツや楽器の練習に似ている」というのがあって、授業で扱った英文を、何度も何度も音読をして振り返れば、英語力は伸ばせます。

問題は、そのモチベーションをどうやって上げるかですが、グノの授業内添削、なかでも、要約の添削が僕にとってモチベーションになりました。毎回つけられる点数に一喜一憂しながらも、楽しく取り組みました。

点数がいいと「ここがこう読めていたからできたんだ!」とうれしくなりましたし、悪いと「この英文は読めなかった」という印象と一緒に英文内容が頭に残ります。復習のときは、解説のメモを見直しながら理解を深めて、懸命に音読していました。

先生に気軽に相談できたのもモチベーションアップに役立ちました。高2までの僕は要約の点数は常にボロボロでした。高3のときにもスランプに陥ったことがありました。それぞれの担当の先生に相談して考え方や勉強法を見直しながら、レベルアップにつなげることができました。

深田：受験直前期にも、「過去問ばかり解くのではなく、今まで取り組んできた、馴染みのある英文を読み込んでください」と先生に言われていたのが印象的でした。このアドバイスがグノっぽくて良かったと思います。

確かに、過去問を解いていると、「がんばっている」感が出ますが、実際には身につくことがあまりありません。東大模試を受けていれば最新の出題傾向には対応できますし、過去問はある程度遡ると傾向がガラッと変わっていて参考になりません。だから、何年分も解く必要はないと思います。僕も英語の過去問は1年分しか解いていません。

その代わりに、今まで取り組んできた英文を使って知識を確認し、読み込むことに力を入れました。この過程を通して、英語感覚は研ぎ澄まされます。読解力だけではなく、英作力やリスニング力も鍛えられると思います。

安達：英単語を語源から理解するのもグノの英語の特徴です。これを初めて知ったとき「なるほど!すごい!」と感動しました。

語源から単語を解説されると記憶に残りやすいですし、その言葉のイメージもいっしょに持てるので、一対一対応で応用の利かない丸暗記とは全然違います。前置詞にしても「toは矢印があって……」



佐藤 祐希さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)



中塩 瞭さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)

とか「of はここからポコンと出ている感じで……」とか、そういうイメージを教わったので、「空欄に前置詞を入れよ」みたいな問題が出題されても応用が利きました。

何よりも、解説のときの先生の動作が印象的でした。先生が体を使って英単語の根本のイメージを表現されるんです。take とか、uphold とかを先生が体で表現していくのを見ているだけで楽しいですし、英文を読む際も、語順のまま生き生きと内容をイメージしながら読んでいくのにも活かせました。

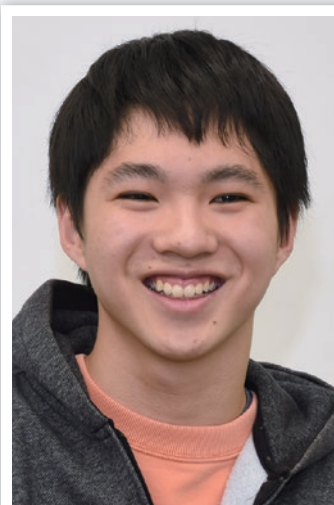
この感覚を意識しながら授業で扱った英文の音読を繰り返すことで英語力が上がったと思いますが、グノで学べたのは、受験対策としての英語というより、ネイティブ感覚に近づくための英語でした。普通に英語を読んだり書いたりできるようになることを目指す授業だったとも言えます。

松井：グノの教材は本当に知的で面白いものが多かったです。時事ネタも豊富ですし、教科書ではとても出会えない興味深いものばかりでした。

そういう英文を自力で読んでも、分からないところがたくさんあります。でも、先生が細かく解説してくださって、英文のバックグラウンドも詳しくお話ししてくださるので、そこから一気に理解が深まります。その英文を家に持ち帰って復習していると、新たに分かってくることもあって、心から楽しんで何度も音読していました。

東大の入試本番でも、グノの教材と同じように内容が深い英文が多くて、試験時間中にもかかわらず楽しく読むことができました。お陰で、狙い通り TLP（トライリンガル・プログラム）*に選ばれたのは幸いです。

*入学時に一定レベルの英語力を有すると認められた学生（上位一割程度）のうち希望者を対象に行われ、日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を鍛える教育プログラム。（<http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/>）



深田 大雅さん（理Ⅰ・筑波大学附属駒場）

英語が伸びた時期

松井：高2のときに読解の成績がグッと伸びました。グノに通うまでは、学校の勉強と英会話しかやっていなくて、スピーキングばかりがんばっていました。グノでリーディングに力を入れるようになったら、英文を読めるようになってきました。

高3の夏から秋にかけても伸びました。高3の5月くらいから本格的に音読を始めて、その成果が夏に出てきたのだと思います。音読の効果は絶大です。英文がスラスラ頭に入ってくるようになります。

佐藤：僕の場合、英語が好きかどうかと聞かれれば、正直なところ、英語自体には思い入れはありませんでした。でも、グノで読める英文は、時事ネタがあったり、サイエンスに関する論説があったりで、日頃あまり自分からは読まないものばかりでした。そういう英文を読むのは楽しかったです。英語の勉強というよりは、単純に読み物として興味を持てました。それが英語力の維持にはつながりました。

英語が伸びた時期、ということでは高2の初めに一番伸びたのかもしれません。その後もクラスが落ちたり、要約の点数が伸び悩んだりもしましたが、その度に担当の先生に相談して、勉強方法を見直して、安定するようになりました。

深田：高2まで通っていた塾と比べて、グノは、扱う英文の量が圧倒的に多かったです。しかも、授業内で演習してすぐに添削してもらえるのも大きな違いでした。添削というと、返却までに1週間から2週間かかるのが普通です。でも、グノでは授業時間内に答案が返ってくるので、自分の間違いにその場で気づけるのが良かったです。

僕の場合、受験直前期にも伸びました。グノの先生は、授業以外でも個別の添削に気軽に応じてくださいます。受験直前には、授業で以前扱った英文の和訳に力を入れて弱点を強化し、それで効果が上がったと思います。

中塩：僕は、部活が忙しいなどの理由でグノを辞めたことがあります。多分、それと相関関係があると思うのですが、模試の偏差値が一気に下がり、その後、グノに復帰したら、また、一気にもとの成績に戻りました（笑）。語学は継続が大切だとよく言われますが、自分一人だとい教材を用意するだけでも難しく、先生の解説が受けられないと勉強の効率も上がりません。僕の場合、グノを辞めたからこそ、グノのすごさやありがたみを実感できました。

安達：伸びたのをはっきり実感したというよりは、僕の場合、勉強のやり方が徐々に改善できて、それに伴って徐々に英語力も伸びていった感じです。

たとえば、音読を例に挙げてみます。初めは音読のやり方が分からないので、先生のアドバイスなどを参考にして何度も繰り返し音読します。それでもやり方がよく分かっていないので、ただ声に出して読んでいただけでした。

ところがそれを続けていると、疑問点が見つかります。たとえば、一文ずつは理解できているはずなのに、文章全体はよく分かっていないことに気づいたりします。全体が理解できていなくては音読しても効果が限られてしまいますから、文章全体を理解するために授業の受け方なり、勉強の仕方なりを考える必要があります。

そこを追求していると改善点が見つかり、その時点で音読が少し上手くなります。

しかし、少し上手くなると、今度は別の点に疑問が生じます。そしてまた見直して英語が上達します。それが改善できると、さらに音読のやり方も改善されて英語が上達します。

とにかく、疑問点に気づくこと、そして、「何が悪いのだろうか？」と考えることが必要です。順調に伸びたとしても「もっといいやり方がないのかな？」と模索してみることが大切です。こうした試行錯誤の結果として、弁証法的に英語が上達すると思います。

一番下の状態から上まで一気に行けるわけではありません。上手いいかない場合に別の方法を追求することで、上手い勉強法に到達できます。

つまり、何も考えずにひたすら音読していても、音読の効果は薄いのではないのでしょうか。

遠藤：高3の夏期講習で集中して英語漬けになった経験は僕には大きかったです。

夏期講習では読解の授業が4日間連続で行われ、毎日膨大な量の英文を読むことになります。この4日間はものすごく集中して復習しました。その日に扱った英文を、翌日家を出るまでの時間で一通りすべて自分のものにするつもりで何度も音読していました。

その4日間の前と後で東大模試の英語の成績が30点くらいアップしました。8月末のグノのクラス分けテストでも $\alpha 1$ から α に上がれました。

※当時の通常授業は、 α （最上位）、 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 、 $\alpha 3$ 、 $\alpha 4$ 、 $\alpha 5$ の設定。



松井 彩里さん（理Ⅰ・渋谷教育学学園幕張）

グノーブルの数学

中塩：これは、どの科目にも言えることですが、「勉強しようかな」と思えるきっかけを与えてもらえて、「この科目は楽しい」と実感できるまで導いてもらえれば、後は自主的にその科目に向かえるようになります。その意味で、中3から始めたグノの数学には感謝しています。

それまでは数学を全く勉強していなかったので、数学へのモチベーションが上がったのは^{おだ}櫻田先生のお陰だと思っています。授業中にもよく僕は絡んでもらえたので、授業に出席しているだけでも楽しかったです。

深田：数学はもともと苦手ではありませんでした。ただ、学校の授業が学年に沿った進み方だったので、先取りしたいと思ってグノに入りました。

特にお世話になったのは田部井先生です。添削がとても細かいし、相談にも乗ってくださるし、補講を頻繁にやっていただけたので、とても助かりました。

高2のときは毎週の添削課題が楽しくて夢中になって解いていました。考えること自体を楽しめる問題を毎回用意してもらえたり、細かな添削が返ってくるのも楽しみでした。これがきっかけで、数Ⅲにも興味を持てて自然に入っていました。

佐藤：グノの数学は一人ひとりをしっかり見てくれて、こっちに合わせて導いてもらえるので本当に助かりました。

僕の場合、中3で学ぶ幾何が苦手になってしまい、学校のテストでも平均点より10点も20点も下の点数を取っていました。それで、英語といっしょに数学もグノでお世話になることにしました。

グノの数学は、中学の間は授業中に問題をどんどん解いていくスタイルです。こっちがつまずいていっていると、それに応じてヒントやアドバイスがもらえます。そのうちに周りのペースより先に進むようになりましたが、そのときにも先生が答案を丁寧に見てくださったり、調子がいいときには別の面白い問題がもらえたりしました。

学年が進むとセルフチェックシートを使うようになりましたが、これにはすごくメリットがありました。先生から指摘してもらう勉強から、自分のことを客観的に見る姿勢へと、勉強法が大きく転換というか、進化していく感じでした。

特に、数学に得意意識を持つようになると、分かっているところは先生の解説もあまり聞かなくなります。その結果テスト演習で「やっちゃった」となることもありました。そうした反省点を自分でセルフチェックシートに書いていくんです。

田部井先生も長澤先生も、適当に問題を選んでいるわけではなく、「ここを押さえてほしい」という意図のある良問を僕たちに提供してくださいます。それにひっかかったときは、その大切な点を自分の言葉で咀嚼してセルフチェックシートに書きました。しょうもないところでミスったときは、その悔しさを書きました。

セルフチェックシートは、自分の弱点をピンポイントで把握できると同時に、先生がシートをちゃんと見てくださいますから、先生とのコミュニケーションツールとしても有効でした。

深田：僕は、自分の答案を見て恥ずかしく思っていました。でも、セルフチェックシートがあるから、恥を捨てて客観的に自分を見つめられました。どこで自分が変な道に進んだのかを把握して、厳密に論証できるようになりました。

正しい答えが出せたときにも、たとえば、「ここはこういう同値変換でいいのか」といった疑問が湧くことがあります。それをシートに書いておくとちゃんと先生が答えてくださるので役立ちましたし、信頼できる先生が見てくださっているのは励みにもなりました。

グノーブルの国語

中塩：高1で古文を1年間受講しました。吉田先生は話術が巧みなので、授業にグイグイ引き込まれました。

吉田先生に古文を習うと、現代とのつながりが見えてきます。時代によって変化することと変化しないことがあります。先生のそういうことへの指摘や分析を聞くのは興味深かったですし、日本人特有の感性を意識化できたこともあって、現代にも通じる古文の面白さに気づかされた1年間でした。

深田：高3で東大国語を受講しました。僕は国語が苦手で、現代文を読んでも、「どうしてこんなに偉そうな書き方をするんだ」という感想しか持てなくて、内容はまるで理解できませんでした。

吉田先生は、そういう現代文を分かりやすく噛み砕いてくださるので、先生の話の聞いていると、モヤッとしている文章の霧が晴れていくようでした。ポイントも的確に話してくださったので、文章理解が深まりました。答案の書き方もしっかり教わったお陰で、全然できなかった国語が人並みにはできるようになりました。

佐藤：僕が東大国語を受講したのは、高3の冬になってからです。それまでやってきた国語の勉強と、高得点になったり平均を割ったりして安定しないテスト結果について吉田先生に個人的に相談しました。「あなたは読めているけれど、書けていません」と先生から指摘されて、僕はハッとさせられました。

答案の作り方を先生から実践的に指導していただいたお陰でコツがつかめて、超得意とは言えなかったかもしれませんが、それなりに現代文はできるようになりました。

実は、冬期講習は予備校にするかグノにするか悩みました。大人数のクラスで授業を受けるのはきついし、多くの受験生と同じことをしても差がつかないような気もしました。だから、信頼できる先生に個人的に見てもらった方がいいと思い、グノの国語を受講しましたが、大正解でした。



安達 充慶さん（理Ⅰ・筑波大学附属駒場）



遠藤 建さん（理Ⅱ・渋谷教育学園幕張）

グノーブルの物理・化学

佐藤：グノの物理の授業は大好きでしたし、ものすごく楽しかったです。

昔の科学者が考えていたことをたどりながら進めていく授業スタイルで、考えるのが好きな僕には刺激的でした。自分の頭で考え抜いて「これだ!」と分かったときには、小学生みたいに純粋に喜んでいました。

物理については「下手の横好き」でしたが、結果として人並みの点数は取れるようになりました。ただ、そうした点数的なこと以上に、楽しかった授業の思い出は貴重な財産になりました。もともと地学が好きなので、大学では地学分野に進もうと思っていましたが、今では物理分野にするかどうかで迷っています。一般教養課程では、絶対に物理を履修するつもりです。

深田：グノの物理については僕もすごく楽しんだし、大好きでしたが、佐藤君が話してくれたので、僕は、化学について話します。

もともとグノには化学がなかったのが、高2の1学期は大手予備校に通いました。問題に対しての考え方や速く答える方法を教えてくれるので、それはそれで役立ちましたが、夏にやっとグノで化学が開講されたので夏からはグノに移りました。

グノの化学は、実験をその場で見せてくれます。開講当初は実験の下手際もありましたが(笑)、やはり実物は印象が違います。グノの授業は、予備校と違って受験のテクニックではなく本質を教えていただけました。数学と化学を同じ日に受講できるのも魅力でした。

グノーブルの先生

遠藤：どの先生もすぐに顔と名前を覚えてくださるので、親近感が湧きました。質問をしやすかった

のが良かったです。

そういうグノが僕は本当に好きで、絶対に休みたくありませんでした。でも、1回だけ風邪で休んでしまい、このとき、「休んだ週の教材をどうすればいいですか?」と先生にうかがったら、「提出してくれたら添削します」と言っただけでした。実際に提出したら、その添削以外に、授業内容などをB5の用紙2枚にびっしり書いてくださいました。ここまで丁寧に対応してくださったのには大感激でした。

安達: グノでは、どの英語の先生も、自分にはとうてい到達できないくらいの英語力をお持ちでした。単に受験の英語というのではなく、英語そのものに普段からたくさん接していらっしゃるんだろうというのが伝わってきました。

英語が大好きで、毎日たくさん英語に接していなかったら、あんなに面白くて新鮮な教材を用意できるわけがありません。授業中の解説からも、生徒がする質問に対する受け答えを聞いていても、深く鋭いものが端々からうかがえました。

先生方に圧倒的な実力があって、英語に対する情熱を持ち続けていらっしゃるのが伝わってくるので、信頼感も増しますし、こちらとしては安心して、楽しく授業を受けられました。

松井: 先生方が英語についての知識が豊富なものすごいなと思っていましたが、教養が深くて、世界情勢にも通じていらっしゃるということに感動していました。

ものごとを評価して考える軸をしっかりお持ちなので、英文に書かれていることが深く分かるということかもしれません。しかもその軸のバランスがとれているので、私たちの心にも響いて、こういう大人になりたいという気持ちにさせられるのだと思います。

佐藤: 本当にユニークな先生ばかりでしたけれど、どの先生も楽しそうに授業をされるのは共通です。先生が楽しそうにされていると、授業を受けている僕らも楽しい気持ちになります。

楽しい授業が実現されるのは、先生方がその科目に精通されているからだろうし、それから、生徒たちを下に見ていないからだと思います。

そういう先生方だから、相談にも行きやすいし、数学や物理の場合、先生と一対一でお話する機会も多くて、純粋にうれしかったです。

深田: 本当に、質問しやすい先生ばかりでした。どの先生でも、質問すればしっかり聞いてくださるし、質問の量が多くても嫌がらずに、一つひとつ解決してくださいます。その親身さは勉強のモチベーションにつながります。

予備校だと、先生が神様みたいなポジションにいますので、先生に話しかけにくいですし、授業が終わると先生が真っ先に職員室に帰ってしまうのも普通です。生徒が多いので先生の前に行列ができてしまったりもします。気軽に質問する雰囲気ではありませんでした。

中塩: グノだと先生の心が僕たちに開いているので質問にも行きやすいし、仮にその場で分からないことでも、すぐに対応してくれます。

以前、カタラン数に興味を持ったことがあって、それについて^{おだ}櫻田先生に質問したことがありました。「なるべく早く応えるから」と言われました。回答は翌週かなと考えていたら、次の日の夜には電話があったんです。こんなに早く電話をくださった櫻田先生の誠実さに本当に心打られました。

グノーブルのシステム

中塩: こんなに受付の方が優しいところは他の塾にはないと思います。子ども扱いされたり、冷たくあしらわれたりすることはグノでは絶対にありません。

佐藤: 受付の方も先生も本当に生徒思いです。

深田: 生徒たちを尊重してくださる文化みたいなものがグノにはあるのかもしれません。

僕は、1回も教わったことがないに先生から優しくしてもらった経験があります。「〇〇先生はいらっしゃいますか」と聞いて、教えられた方に向かって歩いていたら、その先生がわざわざ僕を追いかけてきて、「ごめん。〇〇先生は△△にいた」と訂正しにきてくれました。

遠藤: 生徒たちがどこの学校に通っていて、その学校がどんな校風でどんな行事があつてということも、先生方はよく知っていますよね。

安達: グノは学校行事に対して理解があつて応援してくれます。

僕らの学校の場合、行事が忙しく、特に11月の文化祭では主役の高3が命をかける思いで取り組みます。そのため、高3の9月、10月はずっと文化祭の準備に追われて、勉強をする暇がほとんどないくらいでした。でも、塾に行けない日があっても振替制度があつたので本当に救われました。

ただ、グノの制度は僕たちの学校生活を応援する仕組みだと思うので、理由もないのに振り替えてはいけないと思います。



佐藤 祐希さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)



中塩 瞭さん (理Ⅱ・渋谷教育学園幕張)

佐藤：僕も、振替に本当にお世話になりました。中山先生の授業はなんとかして振替できたので1回も休みませんでした。

松井：文化祭やスポーツフェスティバルなどと授業がかぶったとき、振り替えられるのは便利でした。グノには、休みたくない授業があって、休まなくてもいいシステムもそろっている感じです。

後輩へのアドバイス

遠藤：東大は合格点が低めです。そのため、苦手な科目があっても他の科目で挽回できます。だからこそ、グノで言われた通りに勉強して、英語を得意科目にしたいと思います。グノで勉強すれば、英語が苦手な人から、松井さんみたいに TLP（トライリンガル・プログラム）*が取れるレベルの人まで、英語をしっかり伸ばせるし、英語は安定して得点できる科目です。グノを信じて勉強をがんばってください。

*入学時に一定レベルの英語力を有すると認められた学生（上位一割程度）のうち希望者を対象に行われ、日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を鍛える教育プログラム。（<http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/>）

安達：東大はそんなに簡単に入れる大学ではないと思いますが、根気よく勉強を続ければ、絶対に入れない大学でもありません。そこで大事になってくるのは志望理由です。

「最難関だから」という適当な理由で東大を目指すのではなく、「自分はこういう分野をやりたいから東大に行くんだ!」という目的をしっかり持ってほしいと思います。それが、根気よく努力し続けられる力の源になります。

佐藤：僕は、目指すべき専門分野も決まらず、「教養学部があるから」という理由だけで東大を選びました（笑）。

それでも最後まで勉強を続けられたのはグノの先生方のお陰です。僕は、「今後どういう勉強をしたらいいいですか?」という失礼なくらいアバウトな質問をいろいろな先生にしましたが、どの先生も本当に丁寧に答えてくださいました。受験勉強をしていると、悩みは尽きません。そういうときは、いちいち悩まずに、グノの先生に相談するのが一番の近道です。相談をして、先生に教えていただけると、ちょっとこっちの背筋も伸びるというか、しっかりやろうという気持ちにつながります。

深田：グノでは予習はそれほど求められないけれど、復習はとても大切です。復習をきちんと積み重ねていけば絶対に学力が上がります。

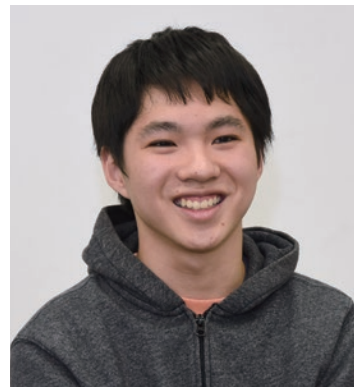
それから、菊島先生がおっしゃっていたことですが、根拠のない自信を持ってがんばることも大切です。「自分には届かないかも」と後ろ向きに考えていると自分で自分にブレーキをかけてしまうと思います。

中塩：僕も根拠のない自信を持つのがいいと思います。東大といっても、コツコツ積み重ねれば受かるって僕は思っています。僕自身、中1の頃は東大を神格化していました。でも、東大に合格する人が多い環境に身を置いているうちに、自分の中でも東大が近いものに思えてきました。現実味を帯びた目標ならば、勉強を続ける気にもなります。東大を目指す人は、気負わず気楽に勉強してください。

松井：受験勉強は正直つまらないと思っていました。同じことの繰り返しで、紙に書くだけで新しいことは何も生み出していないからと。

でも、グノでの勉強はとても楽しいものでした。受験より広い世界が見えてきたし、今やっていることが将来の自分の力になると確信が持てたからです。

そういう勉強をしていれば、受験の直前期も苦しまなくて済みます。気負わず気楽に勉強しながら、グノでの勉強を思いっきり楽しんでください。



深田 大雅さん（理Ⅰ・筑波大学附属駒場）



松井 彩里さん（理Ⅰ・渋谷教育学園幕張）